

住民の意向調査の結果を受けた負担軽減!

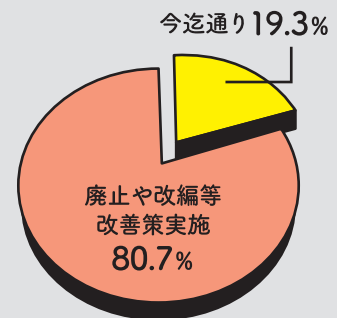
五平町内会でも他の自治会・町内会同様に役員の担い手不足が問題となっています。加えて、町内会事業への参加者の減少や実行委員の繁忙さ等により、町内会活動を今後も継続して行っていくことは困難であろうとの意見が寄せられました。更に町内会脱退や解散にも言及する意見がありました。

そこで、町内全世帯を対象に町内主要行事に関するアンケート調査を実施しました。

アンケート調査の結果、防災関連以外の行事は、一旦の中断もやむを得ないとの意見が寄せられ、アンケート調査の結果に基づく柔軟な運営をするために、従来組織の見直しと、それに伴う規約改訂のための規約改訂委員会を設置し、協議を行いました。役員・住民の負担軽減に向けて、必要最低限な事業のみ実施する事を目標にし、どのような事業形態にも対応できるよう、事業の詳細を記載しない規約に改訂し、納涼祭の中断も決断しました。

役員選考は引き続き難航が予想され、今後も課題や推移をみていく必要があると考えています。どこまでデジタル化や女性、中高生、生産性世代の参画と活用ができるかは不透明ですが、引き続きパラダイムシフトを進めていきたいと考えています。

五平町内会(全戸数273戸)
負担軽減町民意向調査結果



持続可能な地域づくりに向け、評議員会を設置!

岡部第4自治会の村良町内会では、役員と地域住民が安全・安心な地域自治に参画できるような仕組みづくりのために、評議員制度を導入しています。

評議員は、町内会の選挙で選出され、任期2年で最大4期まで評議員を務めることが可能で、1度当選をすると再当選することが多く、より深く町内会事業に関わることができるようになります。評議員は8名で構成され、町内会長、会計、防災委員、環境美化委員などの各要職を務めており、町内会事業への理解を深めていきます。

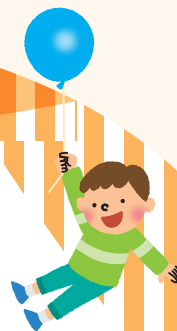
今年度の町内会長は、評議員4期目の経験豊富な方が務めており、また、評議員OBは高齢者サロンやグランドゴルフ愛好会、寺社、行政委員等に関わることが多く、継続的に町内会事業に参画をしてくれています。

評議員制度を取り入れることで様々な事業に関わることができ、各事業のコンセンサスが図られ、より事業への理解が深まり、住みよい地域づくりにつながっています。また新たな委員の育成もでき、OBも継続的に町内会事業に参画してくれることから、持続可能な地域自治の体制が作られていると感じています。

評議員制度を取り入れ50年が経過しました。この制度により、各要職同士で意見交換等をする機会が生まれ、事業に関する広範な知識や経験を身に着けることができ、また人材育成にもつながるため、今後も評議員制度を活用しながら、安全・安心な地域自治づくりに取り組んでいきたいと考えています。



自治会活動への 参加を促し、交流を 深めよう！

NO.
3-1

☑自治会:葉梨3 町内会名:清里2丁目 自治会長:山梨 文男

地域一体で実施する交通安全運動や花が溢れるまちづくりを！

葉梨第3自治会では、交通安全や花が溢れるまちづくりを目指した取り組みを行っています。まず、交通安全の取り組みですが、清里2丁目町内会長が町民に呼びかけを行い、405世帯のうち、260人の賛同を得て、「清里2丁目町内会交通安全宣言」として藤枝署に届け出を行い、町民が一丸となって安全で安心な住みやすいまちづくりを目指し、また、一丸となって町内会活動に関わってもらえるよう交通安全に取り組むこととなりました。

次に、花が溢れるまちづくりを目指した取り組みは、清里2丁目町内会は過去に、緑の都市大賞など、2度に渡り大きな賞をいただいております。街並みが綺麗なことから、全国版のコマーシャルのロケ地にも採用されてきました。この綺麗な街並みを継続させ、いつでもどこでも花が溢れ、街並みを花で見直そうと、訪れた人達にたくさんの癒しを持ち帰っていただけるよう町民から有志を募り、素晴らしい街づくりに向けて本腰を入れ、間接的に町内会活動へ興味を持つきっかけづくりを行っていくことになりました。

また、今後の取り組みとして目指しているのが葉梨地区19町内会全体でのLINE配信の実現化です。現在は、葉梨第3自治会(7町内会)のみ実施していますが、予定忘れ、聞き間違い等の防止や負担軽減のために、一斉配信で一本化を目指したいと思います。



スポーツを通じた健康維持と世代間交流を!

西益津支部では、スポーツを通じて地域に住む方々が健康な生活を維持し、地域活性化の力になっていただくことを目的として、「健康を進める会」という団体を立ち上げ、活動を進めています。「健康を進める会」では、各町内会の体育委員と協力し、カローリングやペタンク、モルックなどのニュースポーツ競技や歩け歩け運動などを実施しており、毎年度、約1,000人の方々に参加をいただいています。

近年は、より一層の世代間交流を深めようと、小・中学校及び中学校区コーディネーターの協力のもと、各競技への小・中学生の参加を促しています。その成果として、令和5年度の「スポーツフェスタ西益津」においては、モルック競技を行いました。小学校低学年のチームが複数参加して世代間交流が生まれ、大会は大盛況となりました。また、付き添いの若い保護者にも急遽、自治会のチームに参加していただいたことで、3世代の交流が深まったように思います。

若い方々は、今後の様々な自治会活動における原動力になると考えていますので、「健康を進める会」としては、小・中学生の更なる参加を促し、世代間交流を進め、若い保護者世代の方々とも地域交流を進めていきたいと考えています。



伝統行事を持続可能な運営形態で継承!



藤枝・西益津地区では、藤枝子供神輿保存会が主体となり、毎年夏ごろに藤枝子供神輿を実施しています。藤岡地区でも子供神輿保存会・小中学校地区長・保護者が中心となり、活動しています。今年はコロナの影響により3年ぶりの開催となること、また、以前よりも小中学生の人数が減少していることを踏まえ、開催方法について検討を重ねてきました。

これまでは、3日間かけて3か所の神社を参拝し、各地区を巡行してきましたが、検討の結果、開催日程を1日とし参拝する神社も2か所に変更して実施することにしました。子供神輿当日に向けて、子供神輿保存会から子供たちに対し巡業方法の指導、保

護者に対しては安全確認や休憩所での水分補給等について計7回の運営会議で確認をし、コミュニケーションをとってきました。

役員や保護者の協力、参加した小中学生を沿道で応援してくださる住民との間にも交流が見られ、地域の活性化がみられました。

今後も、従来通りの方法のみに縛られるのではなく、小中学生が減少しているなどの現状を踏まえながら、どのようなイベントをどのように実施していくのかを関係者の意見を踏まえ、検討していきたいと考えています。

中学生による避難所開設・運営訓練の実施！

藤岡地区では、昨年の台風15号により大きな水害に見舞われたことを受け、集中豪雨や台風等の非常時における地域防災体制のあり方等を再確認するために、防災訓練を実施しました。

高齢化が進む中で、地域防災活動には若い世代の力が必要不可欠であると考え、藤岡小学校体育館では、中学生を対象に避難所開設・運営訓練を行いました。指定避難所における機材の設置や稼働を自治会組織である災害本部と中学生が協働で運営できるように、避難用テントや仕切り版、簡易ベット等の組み立て・解体を中学生に実施してもらいました。

防災訓練では、中学生に対し、大人から指示をするのではなく、機材の組み立て方法などで分からないことがあった場合のみアドバイスをするようにしました。その結果、中学生自らがどのようにするべきかを積極的に考えてくれるようになり、自発性・行動力が向上したように思います。

地域防災活動は、非常に重要なものとして位置付けており、持続可能なものにしていくためにも、若い世代の力を積極的に取り込んでいきたいと考えています。今後は、高齢者や幼児への避難所生活にかかる支援等について、市の考えを参考に検討していきたいです。



勝敗にこだわる「体育祭」から親睦を深める「スポーツの集い」へ！

これまでの青島第2自治会の体育祭は、運営の核となる壮年会加入者の減少や競技数の多さからくる選手集めの苦慮、外部の用具借用準備などによる負担が大きかったため、体育祭の見直しを図ることにしました。

大がかりな準備や外部の用具借用はせずに、自治会内で行える範囲で行うことで開催時間の短縮・運営側の負担を軽減しました。また、競技についても事前準備や説明を含め、誰もが参加しやすいような競技を考案し、参加することの意義を価値付けるため、参加賞を配布するなどの工夫をしました。

集団競技については、当日に即席のチームを作ることとし、初めて顔を会わせる人とも自然に会話ができ、チーム作りも面白かったという声や、順位賞ではなく、全員がもらえる参加賞を用意することで、公平で、参加することに意義があったなど、狙い通りの声もいただきました。運営側としても開催時間の短縮に向けて競技等について考えてきたため、準備や片付けがスムーズに進み、時間にゆとりをもって楽しむことができました。

今後は中高生や高齢者・要配慮者まで参加範囲を拡大していき、形式に捉われず、自由な発想で楽しみ、色々な人との出会い・親睦の場として「スポーツの集い」を位置付けたいと考えています。自治会行事の諸連絡や中止の際の情報発信については、自治会HPによる発信方法も一つの手として考えており、今後、HPの開設について検討をしていきたいです。



若い世代の自治会活動への参加を促すために、お祭りを開催！



自治会活動を維持していくためには、若年層の自治会活動への理解と参加が重要です。青島第4自治会では、そのきっかけづくりとして、若年層が興味を持ちやすいお祭りを開催しようと、藤枝駅前にて数年前から屋台の引き回しを開催しています。

しかし、新型コロナウイルスの影響により、長期間お祭りを開催できず、また、踊りやお囃子の指導者の他界、屋台の劣化など、取り巻く環境に大きな変化がありました。このため、今年度になり、やっとお祭りが再開できる環境になっても、準備は順風満帆とはいきませんでした。

しかし、このお祭りを受け継いでいくため、以前からお祭りに参加していた方々が、他界された師匠から教えてもらった踊りやお囃子を、ビデオ等で確認しながら見よう見まねで地元の子ども達に伝授しました。また、屋台は地元の方で塗装修理を行いました。

お祭り当日は、無事に屋台引き回しが行われ、多数のお客さんが駅前に集まり、小雨の降る中ではありましたが、今回はいつも以上に、手作りの温かいお祭りとなりました。また、準備段階から若年層の方達が多数参加してくれたため、多くの交流が生まれたと感じています。

お祭り終了後には、このコミュニティを活かし、藤枝駅前の清掃を実施し、絆をより深めました。

自治会は、若年層が参加しやすい環境を整備することで、地域の活性化に貢献できると考えていますので、今後も精力的に若年層への働きかけを行いたいと思います。

小中学生のお祭り参加による地域交流の促進！

自治会・町内会役員の慢性的な担い手不足が問題となっていますが、その中でも特に、自治会・町内会活動への理解不足や負担に焦点が当てられているように感じています。そこで、5年後、10年後の将来を見据え、地域の小中学生が行事を通じて地域活動に参画できる下地作りが必要であると考えました。

そこで、小学生には、東子供会による「子供まつり」で「子供達による子供神輿練り歩き」や中学生には「志太区民夏まつり」で専用ブースを設け、北中生自身が企画・運営するリクリエーションゲームを実施してもらいました。また、志太区民スポーツ大会（グラウンド・ゴルフ大会）では、中学生の部を設け、中学生の参加を促しています。

子ども達の笑い声や笑顔は、街を明るくし、活気あふれるものにしてくれます。夏祭りでは、全体への波及効果があり、実行委員会からは「来年も是非やっていただきたい」という声をいただきました。また、普段、子どもたちと接する機会が少ない大人達からも、子ども達の成長を再認識できたとの声もあがりました。

これらの行事は、地域役員やPTA、学校の先生方の熱意と協力のもとで三位一体となって推進をしていきたいと考えています。今後も子どもたちに楽しんでいただくことを第一義に継続していきたいです。

